

イエスは彼に言われた。「なぜ、良いことについて、わたしに尋ねるのですか。良い方はおひとりです。」

マタイの福音書 19章 17

一人の人がイエス様に質問しました。

「永遠のいのちを得るためには、どんな良いことをすればよいのでしょうか」(16)

自分のいのちには限りがあることを受け止め、神との豊かな関係を求めた姿勢には、自分の人生をきちんと考える人物であることが伺えます。永遠のいのちは当時のユダヤ人にとって大切な関心事で、パリサイ人は良い行いによって得られると考えました。イエス様の応答は「なぜ、良いことについて、わたしに尋ねるのですか。良い方はおひとりです」(17)でした。「どんな良いことをすればよいか」という問いに対して、イエス様は「良い方」を指し示し「良い方、つまり神様に目を向けなさい」と言いました。イ

エス様は質問者の考えが的外れであることを指摘し彼を導こうとされたのです。

質問者の問題は、彼の自己理解と永遠のいのちについての理解にあったと言えます。

彼は、自分は十戒を落ち度なく守っているという自負がありました。しかし実際は

自分の気に入ったことには熱心で、気に入らないと背を向けました。それは神の呼び

かけに応答せずに、自分の好むことだけを行う自己中心の現れです。永遠のいのちが、

神との隔てなき交わりに生きることであるのに、それを求めながら矛盾していることに気づかなかったのです(21, 22)。

財産を捨てるのが永遠のいのちを得る手段ではありません。そこに隠れている自

己中心や世の富・名声を献げることが求められたのです。

対照的な人物として思い浮かぶのはザアカイでありアブラハムです。ザアカイは神の前に自らの罪を認め、贖罪の気持ちで財産を手放すことで現わされました。アブラハムはイサクを献げよとの神の呼びかけに応えました。これらは神との隔てなき交わりに生きる証でした。

イエス様は子どもたちを呼び寄せ祝福しました(14, 15)。永遠のいのちとは神の賜物を受け取ることで得られます。人が対価を払って得るものではありません。祝福してくださる神の呼びかけに応答し、御心を行うことが永遠のいのちに生きるということです。自分の頑張りを主張するのではなく、神の祝福に生かされていることを喜び、それを生活に現わしたいものです。(泰)

・林眞光修養生 冬季実習期間が今日で終了します。明日10日は新年聖会で配信を担当し、聖会終了後に聖宣神学院に帰院します。第2学年の学びもあと3か月足らず。修養生の学びと訓練のためにこれからもお祈りください。

・新年恒例の「教団カレンダー」「聖書通読表」を配布しています。ご活用ください。来会の難しい方で希望される方は教会までご一報ください。郵送します。

《聞くと聴く》 先週の週報に、聖書を読むときには主に聴く意識を持って、と書きました。「聴く」と「聞く」の違いについて有田モト子先生の著書から抜粋して紹介します。

「聴」の旧字体は「聽」（下段参照）で分解すると左側の「耳」の下には「王」があり右側の「心」の上には「一」があります。心一つにして耳を王様のよ

・有志ボランティアによる
無料食品配布の第2回目実施について

「ボランティアアグループしおん」は、昨年12月に続いて食品の無料配布ボランティアを実施します（2月5日シオン館にて予定）。

現在、食料品を募集しています。ご賛同いただける方にはよろしくお願致します。

*食品募集について

・募集期間 1月9日より開始

・募集方法 日曜日に教会正面階段下に「収集箱」を設置します。そちらに収めてください。現場担当は山口光兄と菊地姉です。

うに大切にして相手の話に耳を傾けるという意味です。「聞」は門構えがある通り聞き手の人生観や価値観をもつて構えて聞くという意味です。どちらの聞き方も意味あることですが、聖書を読む時は主のことばに集中して耳を傾けるという意味でみこ
とばに聴く姿勢を大事
にしたいたいものです。

聽

↑「聴」
旧字体